

SDGsをめぐる国内外最新動向

—SDGs指標とGCNJ/IGESレポート—

吉田 哲郎

公益財団法人 地球環境戦略研究機関
持続可能性ガバナンスセンター 主任研究員

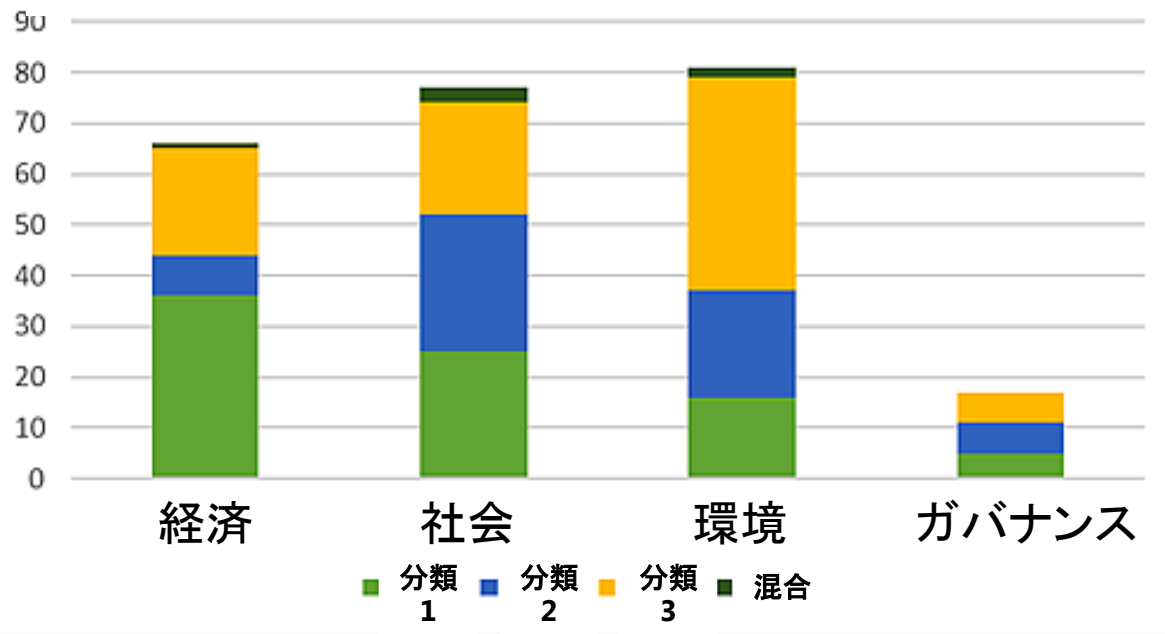
SDGs指標の動向

- 2017年、国連総会で全244（重複を除くと232）のSDGs指標（※1）が採択される。その後もSDGs機関間専門家グループ（IAEG-SDGs）会合で精度を高めるため毎年見直し。**Tier 3指標を中心に2020年と2025年に包括的レビュー**がなされる予定。
- 指標枠組みの活用は、「自発的かつ国家主導」、**各国が開発した国及び地域レベルの指標によって補完。**
- **第6回IAEG-SDGs会合**（2017年11月、バーレーン王国マナマ）
 - 指標の再分類
 - データ収集のCustodian Agency、各国の国家統計オフィスのSDG担当者の確認
 - 国際的なデータ報告に関するベストプラクティスが2018年にまとめられ、IAEG-SDGsのウェブサイトに掲載される予定
 - データ細分化について知見があるステークホルダーからインプットを受け入れられるメカニズムを構築し、データ細分化のためのガイドラインを作成、2019年3月に開催される第50回国連統計委員会に提出予定
- **第49回国連統計委員会**（2018年3月6日～9日、ニューヨーク）
 - IAEG-SDGsの作業の進捗確認、SDG指標の改善案を議論、採択
 - データフロー及び国際的データ報告ガイドラインに関する意見交換
- **第7回IAEG-SDGs会合**（2018年4月9日～12日、ウィーン）
 - 指標分類、追加が提案された指標のレビュー
 - データ細分化に関する作業の進捗に関する議論
 - データフロー及びデータ報告ガイドラインの実施に関する議論
 - SDGモニタリングの実施に関する意見交換

※1 SDGs指標総務省仮訳 http://www.soumu.go.jp/main_content/000470374.pdf

環境指標に関するデータは特に限定的

SDG指標の分野別データ分類の比較



分類1 (Tier I) : 指標の概念が明確、かつ手法や基準が設定してあり、かつデータが定期的に公表されている指標

分類2 (Tier II) : 指標の概念が明確、かつ手法や基準を設定してあるが、定期的なデータ公表に至っていない指標

分類3 (Tier III) : 手法や基準が設定中もしくは設定されていない指標

出典: UNSD, 2016のデータを使用

注釈: 「混合」は指標の構成要因が2つ以上の分類にまたがっている場合

参照: “Environment Is the Weakest Link in SDGs Indicators” 14 October 2016, for <http://www.iges.or.jp/en/sdgs/commentary/20161014.html>

SDGs指標の動向 指標の分類

- 第6回IAEGでは、データがない地域が存在するなどの理由から、当初Tier 1に分類されていた8つの指標がTier 2に再分類された。
- 手法の改善等により当初Tier 2に分類されていた19の指標がTier 1に、Tier 3に分類されていた17の指標がTier 2に再分類された。
- 2017年12月時点でTier I指標（93）、Tier II指標（66）、Tier III指標（68）となっている。

環境関連のTier 3 指標の例

Indicator	Custodian Agency	Decision of the IAEG-SDGs
12.1.1 Number of countries with sustainable consumption and production (SCP) national action plans or SCP mainstreamed as a priority or a target into national policies	UNEP	Tier II as proposed by custodian agency
12.3.1 Global food loss index	FAO, UNEP	Tier III - need updated supporting documents based on completion of methodological development; will be reviewed again by IAEG in coming weeks

その他のSDGs指標の動向

- 2017年1月15日～18日に**第1回国連世界データフォーラム**が南アフリカ、ケープタウンで開催された。100カ国から政府やビジネス界からの代表、データの専門家等、約1,500人が集まった。
- 南アフリカ統計局長：「出生と死亡の正確な記録を管理していない国の数は100を超えており、女性に対する暴力に関するデータを定期的に集計している国はわずか41%しかない。測定できないものは、達成できない。」
- **Twitterと国連が、データ共有するための提携関係**を発表。SDGsの実現を支援するために、Twitterがデータツールを提供し、様々な言語で日々呟かれる、食料コスト、採用情報、健康情報、教育の質、自然災害のレポートなどを分析し、国連による支援活動に役立てる。
- **国連世界データフォーラムが2018年10月22日-24日にドバイで開催**予定。



指標に関するまとめ

- SDGsでカバーされる分野について、**多くの国で信頼のおけるデータが欠如**しているため、政策決定者の適切な判断が妨げられている。
- より信頼のおける最新の情報を収集するため、データ革新が求められている。Fake newsが出回る現代社会では、**データの信頼性確保が極めて重要**。
- **データのあり方が急速に大きく変わりつつある**。例えば、ドイツでは、都市の大気汚染レベルの測定や予測にスマートフォンのデータが使われている。

GCNJ/IGESによるSDGs日本企業調査レポート2017年度版 「未来につなげるSDGsとビジネス ～日本における企業の 取組み現場から～」



<目次>

1. はじめに
 2. 調査の概要
 3. 企業と関連するSDGsの国内外の動向
 4. 経年比較から見えるSDGsの取組み状況の変化
 5. SDGsの本業化Ⅰ — 組織
 6. SDGsの本業化Ⅱ — 企業活動
 7. おわりに
- 付録 企業によるSDGs取組み事例集(25社)

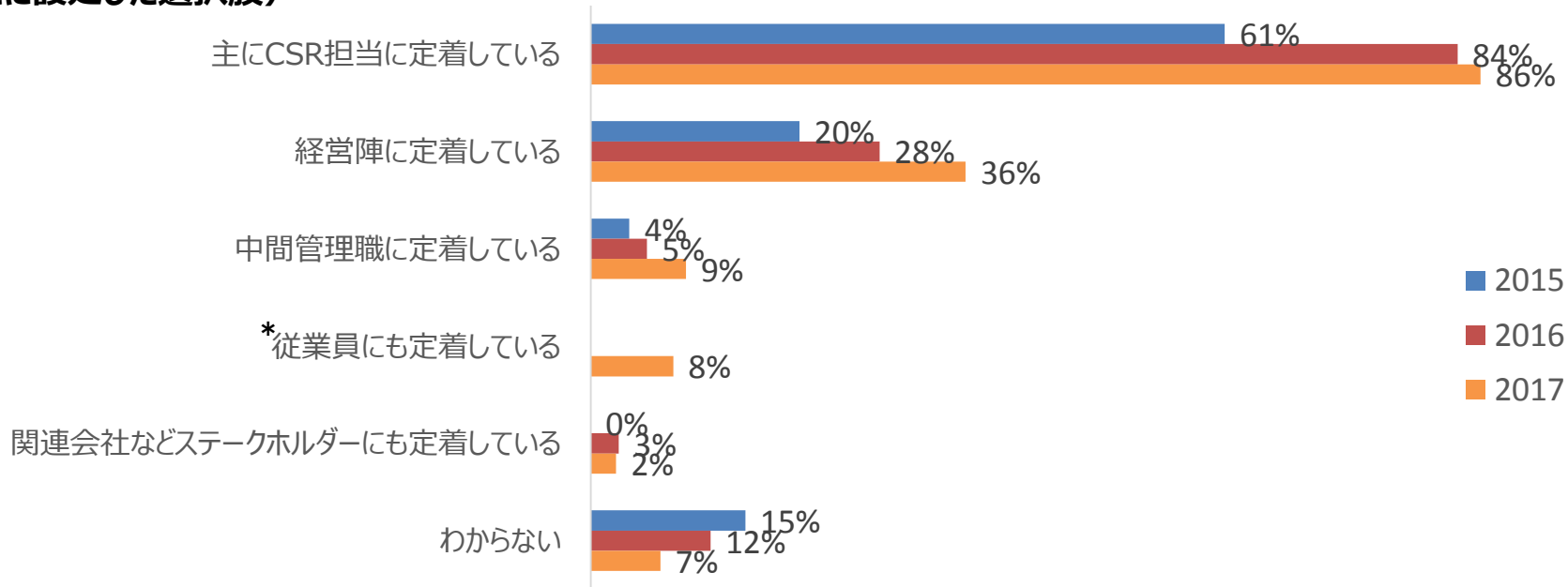
I. 組織の側面	II. 企業活動の側面
<ul style="list-style-type: none"> ①企業理念・経営ビジョン ②経営トップの認識とコミットメント ③中長期の経営計画および目標設定 ④CSR部門、経営層が関与する委員会 ⑤社会課題解決を促すための仕組み ⑥報酬制度 ⑦中間管理職と事業部門の認識 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧中核的事業（ビジネス機会の獲得・拡大） ⑨中核的事業（経営リスク対応） ⑩社会貢献性の強い事業 ／事業に係る社会貢献 ⑪市場環境の整備

※GCNJウェブサイトには、「GCNJ/IGESインタビューシリーズ:SDGsがつなげる企業の未来」が掲載 <http://ungcjin.org/sdgs/archive/index.html>

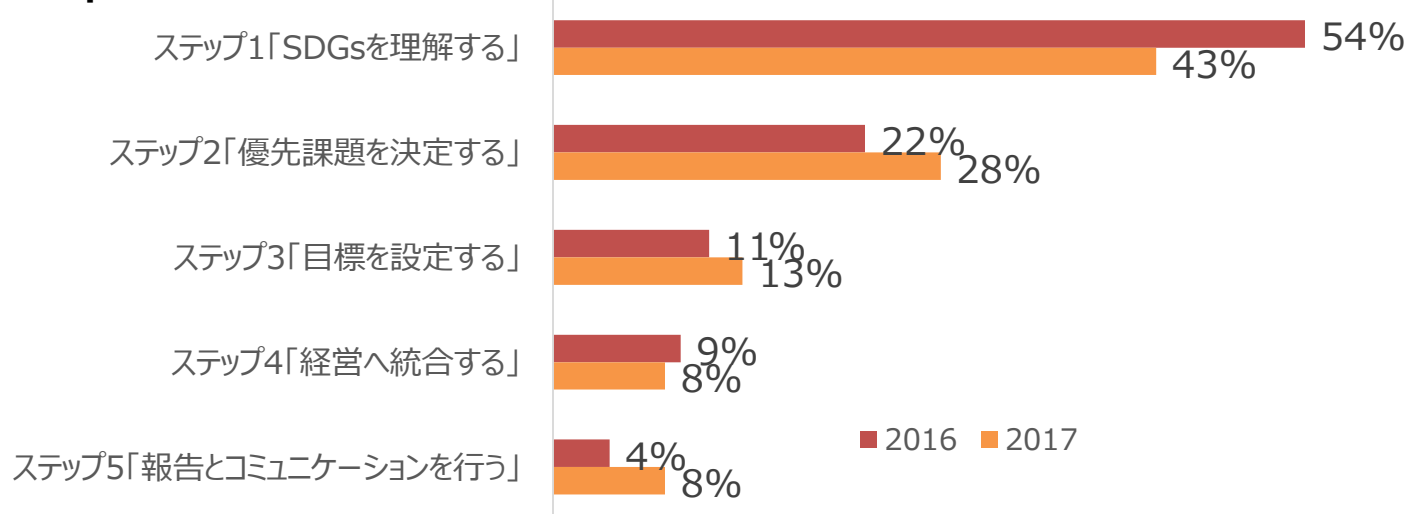
GCNJ:グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、IGES:地球環境戦略研究機関

<アンケート調査結果>

✎ 貴社・団体内でのSDGsの認知度について、あてはまる状況を選択してください。（複数回答、*は2017年度に新たに設定した選択肢）



✎ 「SDG Compass」について、現在の進捗はどのステップですか？



<主要メッセージ>

- ✓企業は、SDGsを通じて見えてくる社会課題や経営リスクをビジネスの機会として捉え、**既存事業の強化・拡大、新しい事業への展開**を目指すことが可能。
- ✓それを後押しする方策として、組織／個人を対象とする、**社会課題解決を促すための仕組み(表彰、報酬、評価制度など)**を社内で整備し、取組みにインセンティブを与えていくことが有効。こうした仕組みは、中間管理職の認識向上にも有効。
- ✓**市場環境を整備するための取組み**や、**社会貢献性の強い事業**は、持続可能な社会の構築に向け、新たなビジネス機会を獲得する手段ともなりうる。中核的事業と合わせて取り組まれるべき。
- ✓こうした活動がコストではなく投資と見なされるためには、**中長期の計画や戦略の中にSDGsの要素が組み込まれていることが必要**。中長期の目標も確実に達成できるものではなく、野心的に設定されることも一案。
- ✓**企業理念は会社の存在意義**であり、これを頂点とする計画体系の中でSDGsが結びついていくと、社会の中での役割が明確になり、**社員の仕事への強いコミットメント**も生まれてくる。
- ✓**経営トップのリーダーシップ**と発信、社内外での対話の積み重ね、パートナーシップの構築は、SDGsの本業化を進める鍵である。